

第4回

# 表彰式・受賞者記念講演会

参加者募集中

食と花の世界フォーラムにいがた 2016



Niigata Award

## 佐野藤三郎記念 食の新潟国際賞



正賞「シュプリング」  
宮田 亮平氏(文化庁長官)作

食の新潟国際賞は、世界各国から食分野で活躍する個人・団体の推薦を受け、食分野において「世界にとって普遍的な価値を持つこと」「人々の暮らしを救う業績であること」などを原則に選考を進め、「本賞」「佐野藤三郎特別賞」「21世紀希望賞」の3部門で第4回受賞者4名を表彰いたします。

本賞

岩永勝氏  
(日本)



国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 理事長  
国際トウモロコシ・コムギ改良センター (CIMMYT) 元所長  
1951年8月生まれ。(65歳)

生物資源の保存活用研究に従事し多くの業績を上げ国際的に高い評価を受けている。

海外国際農業研究機関で30年近く活躍した。特に2002年には「緑の革命」の功績によりノーベル平和賞を受賞した国際トウモロコシ・コムギ改良センター (CIMMYT / メキシコ) の所長に国際公募で選ばれ、財政難の組織を再建し、長期研究戦略を設定、職員数800人を超える世界で最も優秀な国際研究機関へと飛躍させた実績は世界的に高い評価を得た。

長きにわたる国際的な研究活動での広汎な人脈を培い、世界的に影響を持つ農学研究者及び指導者として、2006年には世界食糧賞から特別感謝状を受賞。国連世界食料安全保障委員会のパネラーなど国際機関や国際会議において理事に就任するなど重責を果たしている。

特別賞  
佐野藤三郎



増本 隆夫氏 (日本)

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (NARO)  
農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 領域長  
1957年11月生まれ。(58歳)

高度な国際協力の達成に寄与。

低平地帯の排水改良、排水問題を検討し排水施設の最適規模研究では、雨量計や排水施設の配置、規模計画手法を開発し、現場での計画管理に直結する技術開発に多数研究実をあげ、水田の洪水防止機能評価法の開発でも、先駆的で高度の研究業績をあげた。

アジアモンスーン水田地帯にも対象を広げ、国際河川メコン河の研究では、4研究機関を率いるリーダーとして、世界的情報発信が可能な研究成果体制の構築を図り、行政の事業実施指針・計画基準に反映させ、高く評価された。

特別賞  
佐野藤三郎



マーシー・ニコル・ワイルダー氏 (アメリカ)

国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 水産領域 主任研究員  
1965年12月生まれ。(50歳)

エビ類の研究により、稚エビの培養方法で多大な成果を上げ、学会産業界で高い評価を得る。ベトナムの国際プロジェクトの主体担当者として、淡水エビの養殖産業の発展に貢献。屋内型エビ生産システムの開発と普及による安全安心な養殖の実現をした。

世界のエビ養殖の8割を占めるバナメイエビの、養殖場の造成による環境汚染、高密度養殖による病害、大量薬物投与などの解消に、屋内型エビ生産システムを企業と共同開発した。この技術で、妙高市「妙高ゆきエビ」を商業ベースに乗せ、モンゴルでも養殖を開始。将来多くの発展途上国において、動物性タンパク質の増産安定供給が期待できる。

21世紀希望賞



宇賀 優作氏 (日本)

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (NARO) 次世代作物開発研究センター 基盤研究領域 育種素材開発ユニット 上級研究員  
1974年11月生まれ。(41歳)

一貫してイネの根の構造と機能に関する遺伝育種学的研究を展開し、基礎から応用に至るまでの研究に多くの成果をあげ、国際誌に論文を掲載し、高い評価を得ている。

地球温暖化が一層深刻化する中、干ばつによる大きな影響を受け、東南アジアでの稲作の乾燥耐性強化は喫緊の課題である。フィリピン在来品種に見いだした根の形態や構造の変異に着目し、遺伝子座を検出し、栽培種の耐干性の向上に大きく貢献した。

研究業績は基礎研究にとどまらず世界の稲作の安定化に貢献し今後の研究の進展が期待される。

主催

(公財) 食の新潟国際賞財団

新潟県新潟市中央区白山浦 1丁目 425番地 9  
新潟市白山浦庁舎 1号棟 4階  
TEL : 025-201-8901 / FAX : 025-201-8902  
E-mail : info@niigata-award.jp

お問い合わせ

第4回食の新潟国際賞 運営事務局  
株式会社 アド・メディック

新潟県新潟市中央区万代島 5-1 万代島ビル 13F  
TEL : 025-245-4088 / FAX : 025-247-8101  
E-mail : award@admedic.jp

日時

2016年11月9日(水) 14:30~17:10

会場

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター  
4F 国際会議室 (マリンホール)

定員

200名 (先着順)

入場無料・事前申込優先

裏面ファックスにてお申し込みください

## 食の新潟国際賞とは

新潟は、食料生産や食品産業の盛んな地域です。水と土との壮絶な戦いによって全国一の美田を形成した多くの先人の志を誇りとし、「食の新潟」を築き上げた、先人の献身と情熱を次世代に継承するために、世界に貢献する事業として「食の新潟国際賞」を創設しました。

国際賞は、世界の重要な共通課題となっている食の量的質的課題に対し先進的に挑戦し、めざましい成果を挙げている人(業績)を表彰しています。

「公益財団法人食の新潟国際賞財団」は新潟県内の産業界、農業界、学術界、行政の有志により、2009年3月に財団を設立し、国際賞顕彰事業のほか地域経済の活性化事業、産学官民連携推進事業など幅広く活動を広げております。

### 顕彰(賞)の事業理念

「食の新潟」を世界の食の情報発信の拠点とし、食の質と量を高め、事業活動を通して食文化を創造的に発展させ、人類の福祉と健康、平和に多大な貢献をもたらした業績を顕彰し、永続可能な社会の確立に寄与することを事業理念としています。

### 財団の組織理念

新潟県は日本有数の食の生産地であり、また新潟市は極めて高い水準の食料自給率を誇る田園政令市です。「食の新潟」は、佐野藤三郎氏に代表される多くの先達の志と実践によって形成されましたが本財団は、先人の志を継承し、「食の新潟」をさらに世界に発信し国際賞の成果を高めるため運営活動を行います。

### 公益財団法人 食の新潟国際賞財団 賛助会員(H28年度)(順不同)

特別会員／ 亀田製菓(株)、(株)プルボン、(学)新潟総合学院、一正蒲鉾(株)、佐藤食品工業(株)、(株)第四銀行、新潟県農業協同組合中央会 亀田郷土地改良区、(株)栗山米菓、(株)新潟日報社、(株)新宣、(株)エイケイ、亀田商工会議所、(株)新潟クボタ、(株)電通東日本新潟支社にいがた22の会、N S T、日本食糧新聞社、三菱商事(株)新潟支店、ホテル日航新潟

正会員／ 新潟市農業協同組合、新潟県信用組合、(株)第一印刷所、(株)本間組、石本酒造(株)、(株)ミカサ、神山物産(株)、鍋林(株)ヘルスフーズ事業部、丸七商事(株)、ハセガワ化成工業(株)、大東産業(株)、藤屋段ボール(株)、(株)タケショー、(株)新潟博報堂、BSN新潟放送、新潟陸運(株)、医療法人愛仁会亀田第一病院、(株)新潟食品運輸、山崎醸造(株)、月島食品工業(株)、(株)フジテレビジョン、日本製粉(株)関東支店、日本甜菜製糖(株)、(株)鳥梅、(株)山由製作所、新潟工科大学産学交流会、(株)キタック、北越工業(株)、丸榮製粉(株)、新潟万代島総合企画(株)、(株)鈴木コーヒー、TeNYテレビ新潟放送網、(株)栗田工務店、三和薬品(株)、松田産業(株)、セツカートン(株)新潟工場、(株)藤井商店、日本精機(株)、東邦産業(株)、麒麟山酒造(株)、(株)加島屋、(株)日本フードリンク、(株)アド・メディック、UX新潟テレビ21

個人会員／ 藤島 安之、大越 斎、和田 充彦、河内 直史、古泉 肇、五十嵐 豊、佐藤 銀治郎、宇野 勝雄、新保 房機、栗田 浩、長谷川宏志、尾山 宏輔、久保田 紳一、和澄 孝男、塚本 太一、牧 利幸、井田 増夫、高橋 常孝

## 第4回食の新潟国際賞 表彰式・受賞者記念講演会 参加申込書

はがき、FAX、メールのいずれかで下記必要事項を明記して左記までお申し込みください。

FAXでのお申し込み



FAX番号: **025-247-8101**

申込締切

**2016年10月31日(月)**

定員  
200名  
(先着順)

メールでのお申し込み



**award@admedic.jp**

送付先・お問い合わせ先

株式会社 アド・メディック 〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル13F  
TEL: 025-245-4088 / FAX: 025-247-8101 E-mail: award@admedic.jp

氏名 <small>(フリガナ)</small>	様	所属・役職	
住所		TEL ( )	
氏名 <small>(フリガナ)</small>	様	所属・役職	
住所		TEL ( )	
氏名 <small>(フリガナ)</small>	様	所属・役職	
住所		TEL ( )	